ブルクミュラー『25 の練習曲 作品100』の楽譜表記の研究（2）：1852年ドイツ初版『ショット版』とプレート番号が同じ『シャーマー版』の比較

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 牛頭, 真也, Gozu, Shinya メールアドレス: 所属:
URL	https://senzoku.repo.nii.ac.jp/records/2683

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

洗足論叢　第51号　2022度

研究ノート

ブルクミュラー『25の練習曲 作品100』の楽譜表記の研究（2）

―1852年ドイツ初版『ショット版』とプレート番号が同じ『シャーマー版』の比較―

Study of score notation of Burgmüller's “25 Etudes Op. 100”（2）
Comparison of the 1852 German first edition “Schott edition” and “Schirmer edition” with the same plate number

牛　頭　真　也
Gozu Shinya

1　はじめに

1-1　研究概要

本研究は、筆者がピアノ指導をしている地域の生徒を、ブルグミュラーコンクール（2021年）に参加させたことがきっかけとなっている。1990年に音楽之友社からウィーン原典版が出版されて以降も、日本国内にはピアニストやピアノ指導者などが書き込みをした楽譜が何十種類も存在しており、どの楽譜を主として用いたら良いのか悩むピアノ教師が多いと思われる。そのような中で、原典版の底本とされる1851年フランスのブノワ・エネ社（以下、『フランス版』とする）と1852年ドイツのショット社（以下、『ドイツ版』とする）が、インターネットで誰もが閲覧できる状況であることを知った。フリードリッヒ・ヨハン・フランツ・ブルクミュラー（1806-74）Friedrich Johann Franz Burgmüller（以下、ブルクミュラーとする）の意図する音楽がどのようなものであったかを、「ブルクミュラー『25の練習曲 作品100』の楽譜表記の研究」（1）では、日本国内版の出版状況を概観し、『フランス版』と『ドイツ版』の比較、そしてドイツのペータース社から出版された2種類の解釈版楽譜の比較を行った。

初版楽譜の比較から、『フランス版』は少し長めのアクセント、『ドイツ版』は今日使用されている一般的なアクセント記号と少し長めの記号（デクレシェンドとも解釈できる）の2種の表記があり、そのほか強弱記号を示す位置、記号の有無などの多数の違いがあった。ブルクミュラーが生存中に出版社と出版国を変更していることから、見直しによって楽譜表記を変更した可能性、各社の楽譜製作技術の問題が考えられるが、それらの表記を変更した経緯や詳細は不明である。ペータース社の2種類の解釈版楽譜の比較からも初版楽譜と同様の違いがあることがわかった。

そして、日本国内版は、これまでに複数の出版社から校訂者・解説者を変えて何十種類もの楽譜が出版されているが、そのほとんどが『フランス』と『ドイツ』とは違う表記へと変更されていることもわかっている[1]。

以上のことから、①２つの初版楽譜を用いて解釈をおこない、その後、原典版やペータース版、日本国内版からの解釈版を踏まえることで多様な音楽表現を学ぶこと。②何十種類もの楽譜が存在することを否定的に捉えるのではなく、そのような解釈ができることを受け止める態度の２点がピアノ指導者に求められるのではないかと筆者は考えている。

1-2　楽譜の概要と楽譜名の略称

本文での略称と楽譜の概要は、表１の通りである。

表１　本文での略称と楽譜の概要

本文での略称	楽譜の概要
『練習曲』	ブルクミュラー作曲。日本国内版では、『25のやさしい練習曲』『25の練習曲』のタイトルが一般的である。『フランス版』の表紙に、*25 Etudes faciles et progressives pour le Piano composées et doigtées expressémento pour l'étendue des petites mains par Fred.ic Burgmullér op.100* と明記され、「ピアノのためのやさしく段階的な25の練習曲 小さな手を広げるための明快な構成と運指 作品100」（飯田他 2014：22）と訳している。
『フランス版』	1851年にフランスのブノワ・エネ社から出版されたフランス初版楽譜。現在確認できる、最も古い初版楽譜である。自筆譜が発見されていないため、『フランス版』が原典版を編集する際の底本にされている。各楽譜の下部中央にプレート番号の410.B.が表記されている。
『ドイツ版』	1852年にドイツ（マインツ）のショット社から出版されたドイツ初版楽譜。『ドイツ版』も原典版を編集する際の底本にされている。プレート番号11509.
『ルートハルト版』	1903年頃にドイツのペータース社（ライプツィヒ）から出版された、アドルフ・ルートハルト Adolf Ruthard（1849-1934）校訂による解釈版の楽譜。日本国内版の『練習曲』の校訂や解釈に大きく影響を与えたとされている楽譜。プレート番号8906（Edition Peters. Nr.3101）
『ヒンリッヒゼン版』	1974年にイングランドのペータース社（ロンドン）から出版された解釈版の楽譜。この楽譜にはアドルフ・ルートハルト校訂と明記されているが、1曲目の楽譜左下に「Hinrichsen Edition」の記載があることから、『ルートハルト版』を底本とした解釈版の楽譜である。ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングスから出版されている『ペータース社ライセンス版 ブルクミュラー25の練習曲』は、『ヒンリッヒゼン版』を使用している。プレート番号の記載はなく、カタログ番号（Edition Peters No.3101）のみ記載されている。 ※ヒンリッヒゼン（Hinrichsen）家の誰が編集したかは不明。
『シャーマー版』	アメリカ（ニューヨーク）のG.シャーマー社（後のHal Leonard Publishing Corparation）から出版された、『ドイツ版』の再版とされる楽譜。『ドイツ版』と同じプレート番号11509が全ての楽譜下中央に明記されている。さらに、１曲目の楽譜左下に「Stich und Druck von B.SCHOTT'S SÖHNEN in Mainz.（銅版と印刷はマインツのB.ショット社：筆者訳）」と記載がある。しかし同じ版型を使用していないため、楽譜表記には相違点がある。そのため、この楽譜は解釈版と捉えることができるのだが、『ドイツ版』と同じプレート番号とショット社名が明記されているため、本研究では「再版」とする。相違点については、本論で示す。1861年の創設から1903年『オーステール版』の出版までには、再版されていたと考えられる。
『オーステール版』	1903年にアメリカ（ニューヨーク）のG.シャーマー社から出版された、ルイ・オーステール Louis Oesterle（1854-1932）校訂・運指による解釈版の楽譜。『シャーマー版』を底本としているが、相違点が非常に多い。プレート番号は14104。

1-3　研究の目的と対象

本研究では、『ドイツ版』とアメリカの『シャーマー版』の楽譜表記の比較を行い、ピアノ指導者として『練習曲』をどのように活用することが望まれるのかを考察する。本稿でG.シャーマー社の楽譜を対象とする理由は、下記の3点である。①『ドイツ版』と同じプレート番号を使用して再版したにも関わらず、楽譜表記に違いがあること。②『シャーマー版』の第1番「すなおな心」の楽譜左下にショット社に関する情報が明記されていること。③1903年頃にアメリカのG.シャーマー社から『オーステール版』と、ドイツのペータース社から『ルートハルト版』が出版されている。日本国内で初めて『練習曲』が出版されたのは1940（昭和15）年であることから、それまでに海外で出版されている『練習曲』の楽譜表記の調査は必須であること。

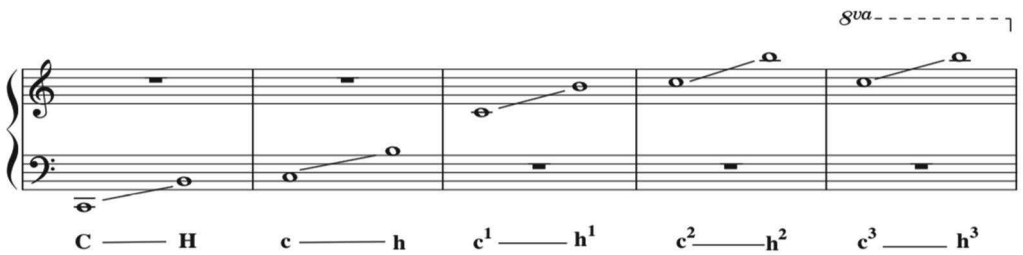
CiNiiで『練習曲』をタイトルに含む研究で、『フランス版』『ドイツ版』の楽譜表記を示しているのは筆者のみである。RILMにて「Burgmüller」「100」のワードで検索したところ、シャーマー社から1903年に出版された『オーステール版』が、2015年にマーガレット・オトウェル Margaret Otwellの校訂によって新版が出版されていることがわかった[2]。

『練習曲』研究は次年度以降も継続するため、本稿では初版楽譜の『ドイツ版』と関連するG.シャーマー社の『シャーマー版』の楽譜を主として取り上げる。本稿では紙面の関係上、日本国内版やその他の海外版（シャーマー社の1903年と2015年の解釈版も含）については示せていたいため、次年度以降の研究で取り上げることとする。

1-4　ドイツ音名における音高と小節番号表記

本研究では、ドイツ音名における音の高さに関しては、図1の表記を用いる。小節番号は、数字に囲み線を用いて表記する。

図1　ドイツ音名における音高表記



三

2　『ドイツ版』と『シャーマー版』

2-1　楽譜表記の相違点

表1に示した通り、1852年にショット社が『ドイツ版』を出版した後、G.シャーマー社が同じプレート番号を使用して再版をしている。さらに、第1番の楽譜左下に「Stich und Druck von B. SCHOTT'S SÖHNEN in Mainz.（銅版と印刷はマインツのB.ショット社：筆者訳）」と明記され、全て

の楽譜の下中央に『ドイツ版』と同じプレート番号 11509 が表記されている。

しかし、『ドイツ版』と同じプレート番号を使用しているにも関わらず、『ドイツ版』と『シャーマー版』の楽譜には相違点がある。全体的に『ドイツ版』と同じではあるが、曲名や発想を示す用語等の文字（大・小文字）と書体の違い、運指の削除と追加、音価の変更、記号の違い（削除、追加、補填等）などを確認することができる。今後の『練習曲』初版の研究に関わるため、以下『ドイツ版』と『シャーマー版』を比較し相違点を示す。

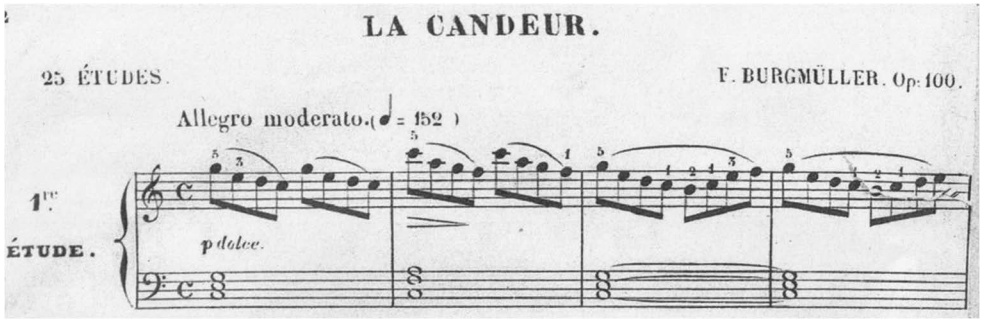
2-1-1　文字表記とスラーの違い

譜例 1a と 1b を比較すると、曲名等の文字表記、速度と発想を示す用語のドットの有無の違いがあり、『シャーマー版』は『ドイツ版』の版型から変更していることがわかる。『シャーマー版』は他の曲においても、文字の最後のドット（.）を省略した表記が散見される。

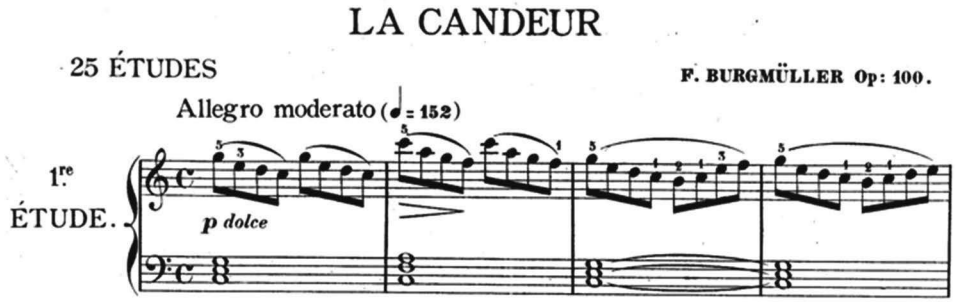
また、スラーを比較すると符頭上部のスラーの位置に若干の違いがあることがわかる。

譜例 1　第 1 番「素直な心」楽譜上部と1~4

a）『ドイツ版』（p.2）



b）『シャーマー版』（p.2）



四

2-1-2　音価の変更

第 7 番「清い小川」では、4右手 2~4 拍目（h^1 音、g^1 音、d^1 音）の音価に違いがある。

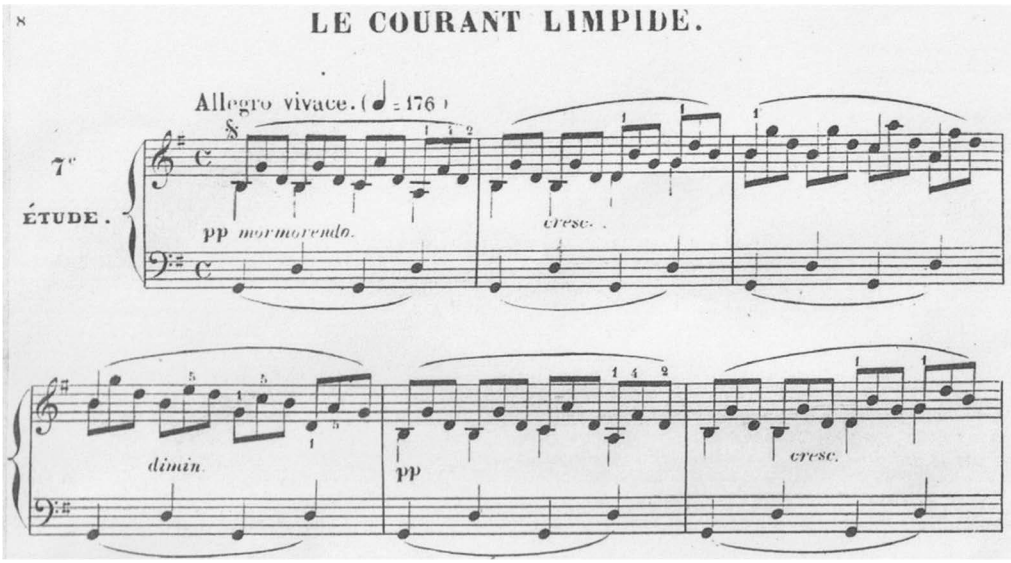
譜例 2a『ドイツ版』では 8 分音符の 3 連符だが、譜例 2b『シャーマー版』では 4 分音符が追加されている。第 1 小節から同じ音価で表記を統一している方が自然ではあるが、『フランス版』『ドイツ版』

ともに8分音符の3連符としていることから何らかの意図があったのではないだろうか。例えば、拍頭に4分音符がないことで、5からのppのフレーズへと3拍かけて橋渡し的な流れを表現できる。また、冒頭から6度音程（1と5指で奏する）の手の開きで進むが、4分音符の表記がない部分には4度音程（1と5指で奏する）があり、手を縮める技術が必要となる。特に拍頭を奏する1の指はコントロールが難しいため、8分音符のみの表記に変更することで、学習者が自然とディミヌエンドできるように配慮したとも考えられる。

ペダルを使用しないで演奏する際は、拍頭の音の伸びがないため、『ドイツ版』と『シャーマー版』では響きに明確な違いが出てくる。この箇所は、『ルートハルト版』『ヒンリッヒゼン版』も『シャーマー版』と同じ表記であり、日本国内版もそれらに影響を受けたのか、同じ表記になっている楽譜が多数である。

譜例2　第7番「清い小川」1~6

a)『ドイツ版』(p.8)



五

b）『シャーマー版』（p.8）

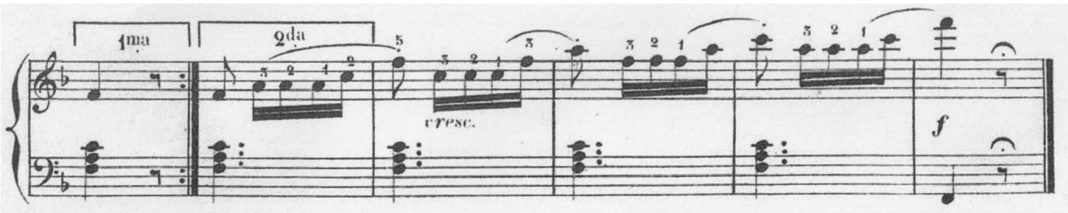
2-1-3　記号の変更①

第17番「おしゃべり」では、2番かっこ右手のスラーの長さに違いがある。譜例3a『ドイツ版』では2拍目 a^1 音から次の小節の1拍目 f^2 音までがスラーになっているが、譜例3b『シャーマー版』では3拍目 a^1 音から次の小節1拍目 f^2 音までとし、最終小節まで同じアーティキュレーションに統一している。興味深いことは、この『シャーマー版』のスラーの表記は、『フランス版』と同じということである。『シャーマー版』は変更する際に、アーティキュレーションを統一するような解釈を行ったか、もしくは『フランス版』を参考にしたことが考えられる。

この曲では、3拍目から次の小節1拍目までのスラーが多用されているため、この箇所を『ドイツ版』のミスプリントと捉えるか、この箇所だけ2拍目からのスラーを意識してニュアンスを変えて演奏するかどうかで、演奏表現に違いが表れると筆者は考える。

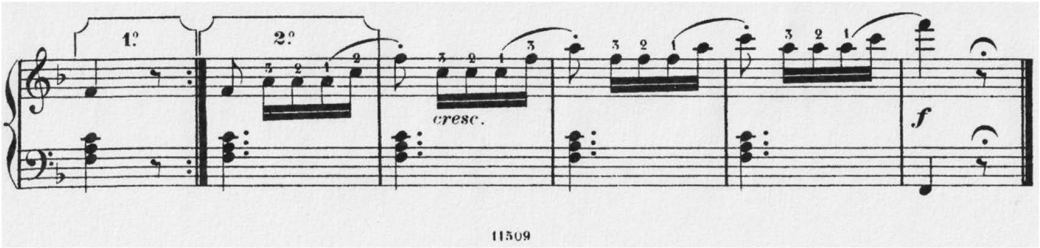
譜例3　第17番「おしゃべり」30～34

a）『ドイツ版』（p.21）



六

b）『シャーマー版』（p.21）

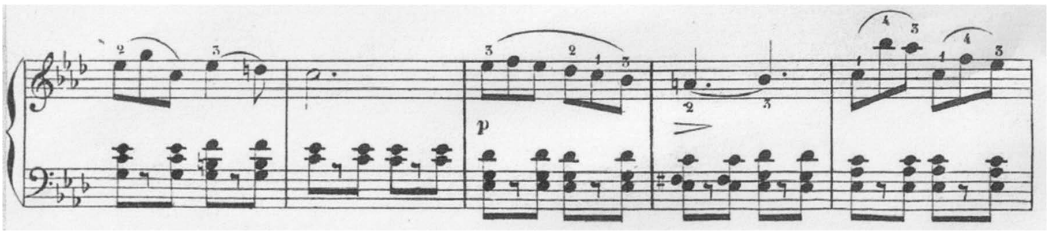


2-1-4　記号の変更②

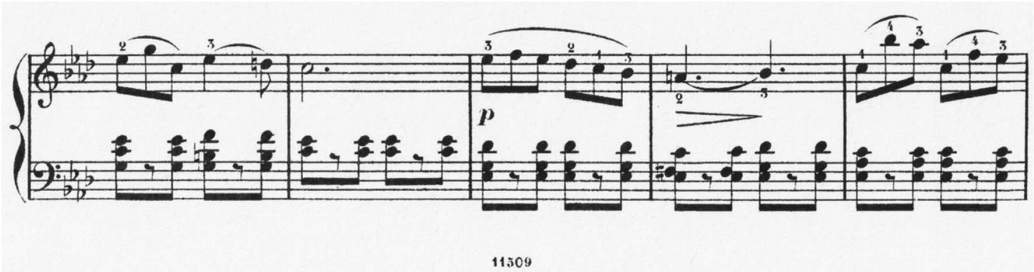
第22番「舟歌」の22に記号の違いがある。譜例4a『ドイツ版』は1拍目に長いアクセントのような記号があるが、譜例4b『シャーマー版』は1拍目から4拍目にかけてデクレシェンドの表記に変更されている。22については、『ドイツ版』も『フランス版』も同じ長さの記号になっている。曲全体を見ると『ドイツ版』『フランス版』ともにこの箇所以外は、3拍、4拍かけてのデクレシェンド表記が用いられている。そのため、『シャーマー版』はミスプリントと捉えたと考えられる。

譜例4　第22番「舟歌」19～23

a）『ドイツ版』（p.28）



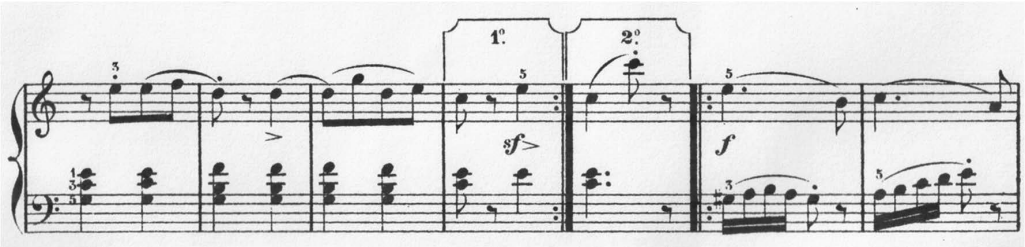
b）『シャーマー版』（p.28）



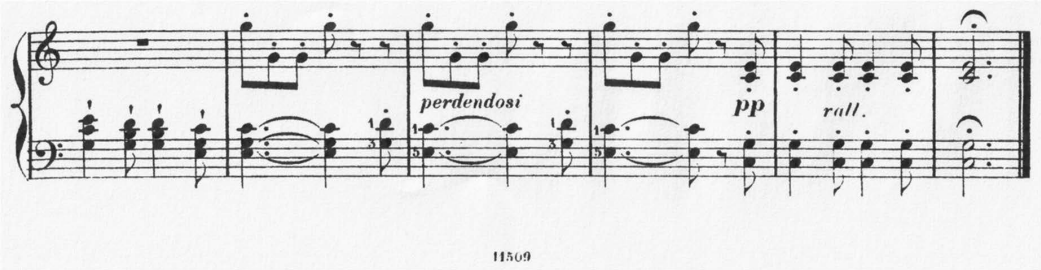
2-1-5　記号の変更③

『ドイツ版』でのミスプリントを修正し補填の記号を追加したと考えられる箇所として、譜例5の第2番「アラベスク」8右手1拍目の d^2 音のスタッカート、譜例6の第9番「狩」52右手4拍目の g^2 音と54右手6拍目の c^1 と e^1 の重音のスタッカート、譜例7の第17番「おしゃべり」25右手1拍目の f^2 音のスタッカート、譜例8の第18番「気がかり」5左手の和音1拍目と4拍目の | の記号が追加されている。これらの記号は『フランス版』で表記されていることから、『フランス版』を参考にしたか、もしくはアーティキュレーションを統一するために修正したと考えられる。

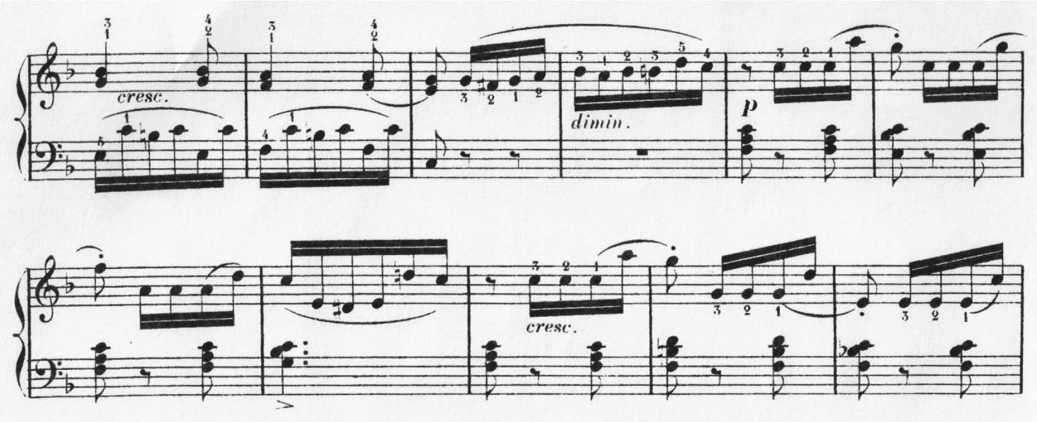
譜例 5　『シャーマー版』（p.3）第 2 番「アラベスク」7～12



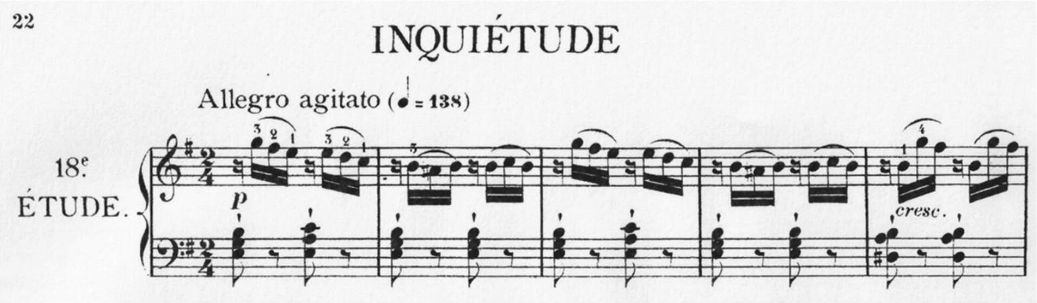
譜例 6　『シャーマー版』（p.11）第 9 番「狩」51～56



譜例 7　『シャーマー版』（p.21）第 17 番「おしゃべり」19～20



譜例 8　『シャーマー版』（p.22）第 18 番「気がかり」1～5

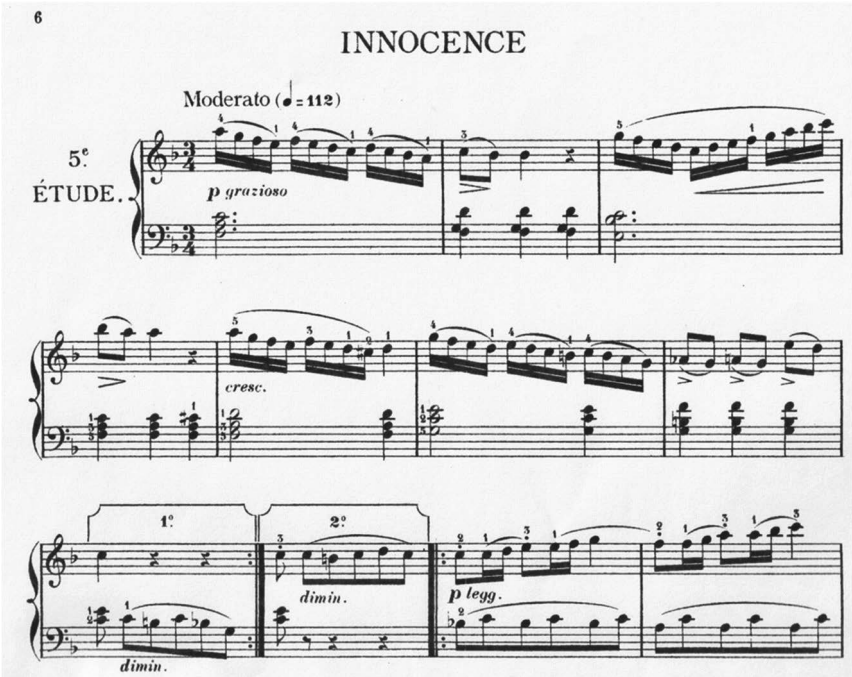


八

2-1-6　記号の変更④

『シャーマー版』が新たに追加表記した箇所として、譜例9の第5番「無邪気」8（2番かっこ）の1拍目 c^2 音のスタッカート記号がある。『ドイツ版』『フランス版』にはスタッカートの表記はないため、補填ではないと考えられる。わずかな表現の違いではあるが、8（2番かっこ）1拍目の c^2 音をスタッカートで奏すると、9からの右手のスタッカートによる表現の印象が弱くなってしまうのではないだろうか。

譜例9　『シャーマー版』（p.6）第5番「無邪気」1～11



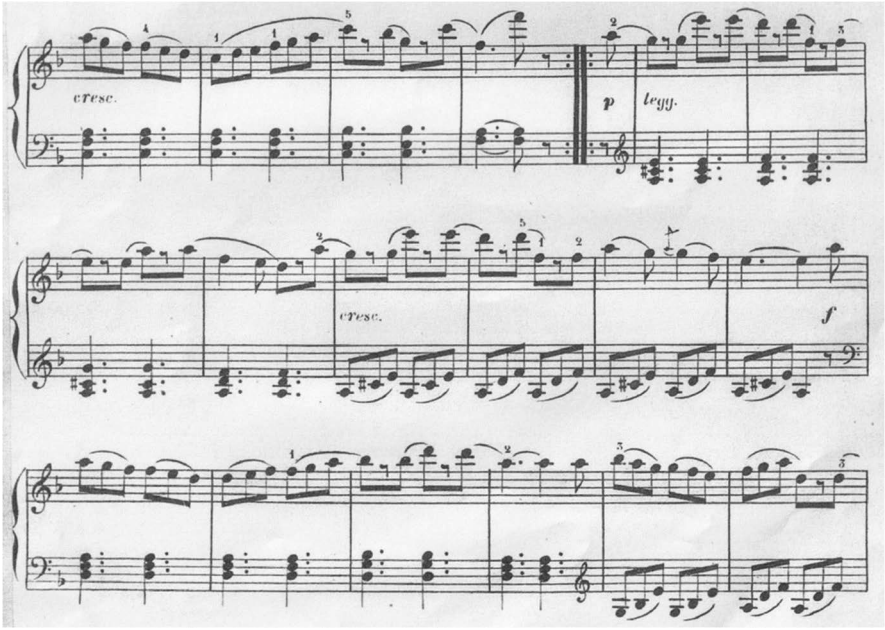
2-1-7　運指の削除と追加

第20番「タランテラ」は、『ドイツ版』の運指の表記を削除、そして追加したものが混ざっている。

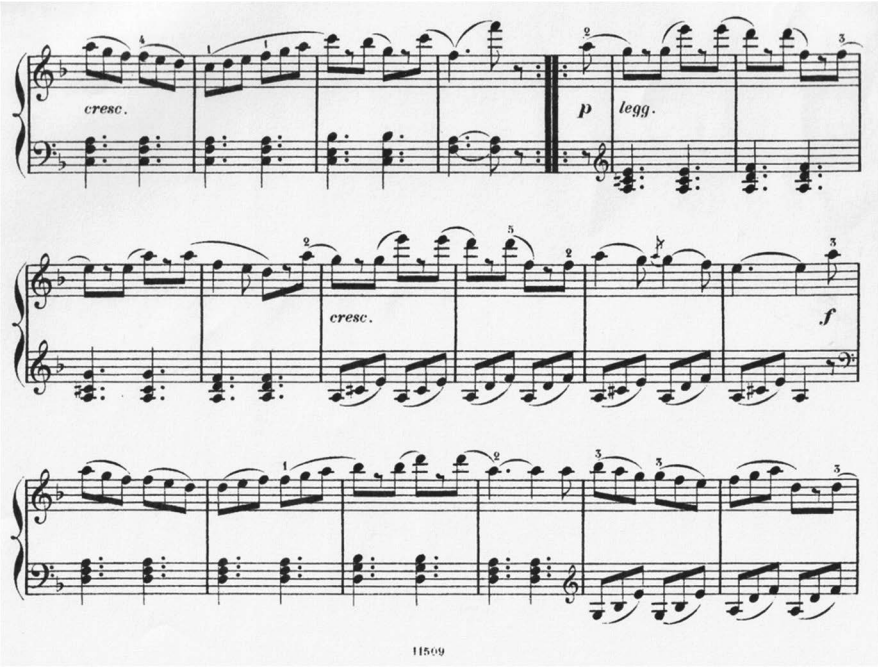
九

譜例 10　第 20 番「タランテラ」13～30

a)『ドイツ版』(p.24)



b)『シャーマー版』(p.24)



譜例10a『ドイツ版』では、18と22の右手4拍目f^2音に「1」が表記されているが、譜例10b『シャーマー版』では削除されている。

譜例10b『シャーマー版』では、24右手6拍目a^2音に「3」、29右手4拍目g^2音に「3」とあるが、譜例10a『ドイツ版』には表記されていない。

上記の箇所は、『フランス版』『ドイツ版』ともに同じであるため、『シャーマー版』が変更したことになる。

運指によって演奏表現に大幅な影響はないと筆者は考えるが、『練習曲』の副題にある「ピアノのためのやさしく段階的な25の練習曲 小さな手を広げるための明快な構成と運指」に示される通り、運指を学習するために、ポイントとなる箇所だけに運指の表記を行ったと考えられる。要するに、『ドイツ版』24の6拍目の右手a^2音に運指が指示されていないのは、8の6拍目に同じメロディーがあり、そこに運指が表記されている。反復される際は同じ運指で弾くという基本的な学習内容を踏まえており、ブルクミュラーは運指の学びを意識していたことが窺える。一方で、ブルクミュラーが示した運指通りに演奏するかどうかは、演奏者の指や手の大きさに関わるため、演奏する人によって運指の変更もあり得ると筆者は考えている。

2-2　速度表示

表2は、『フランス版』『ドイツ版』と『シャーマー版』の速度表記と速度を示す用語をまとめたものである。

第11番「せきれい」の速度は『ドイツ版』♩=138、『シャーマー版』♩=158（斜字は筆者によるもの）と速度表記が異なる。『シャーマー版』の速度を示す用語と速度表記を併せて見ると、第6番「進歩」Allegro（♩=132）だが、第11番「せきれい」Allegretto（♩=158）よりも遅い表記になっており、これは『シャーマー版』のミスプリントではないかと筆者は考えている。

表2 『練習曲』の速度表示

番号	曲名	速度を示す用語	『ドイツ版』『フランス版』	『シャーマー版』
1	素直な心	Allegro moderato	♩=152	♩= 152
2	アラベスク	Allegro scherzando	♩= 152	♩= 152
3	牧歌	Andantino	♩.= 66	♩.= 66
4	小さな集まり	Allegro non troppo	♩= 152	♩= 152
5	無邪気	Moderato	♩= 112	♩= 112
6	進歩	Allegro	♩= 132	♩= 132
7	清い小川	Allegro vivace	♩= 176	♩= 176
8	優美	Moderato	♩= 100	♩= 100
9	狩	Allegro vivace	♩.= 132	♩.= 132
10	やさしい花	Moderato	♩= 152	♩= 152
11	せきれい	Allegretto	♩= 138	♩= ***158***
12	別れ	Allegro molto agitato	♩= 184	♩= 184
13	なぐさめ	Allegro moderato	♩= 152	♩= 152

14	シュタイヤーのおどり	Mouvemente de valse	♩ = 176	♩ = 176
15	バラード	Allegro con brio	♩. = 104	♩. = 104
16	ひそかな嘆き	Allegro moderato	♩ = 126	♩ = 126
17	おしゃべり	Allegretto	♩. = 72	♩. = 72
18	気がかり	Allegro agitato	♩ = 138	♩ = 138
19	アヴェ・マリア	Andantino	♩ = 100	♩ = 100
20	タランテラ	Allegro vivo	♩. = 160	♩. = 160
21	天使の音楽	Allegro moderato	♩ = 152	♩ = 152
22	舟歌	Andantino quasi Allegretto	♩. = 72	♩. = 72
23	再会	Molto agitato quasi Presto	♩. = 126	♩. = 126
24	つばめ	Allegro non troppo	♩ = 138	♩ = 138
25	乗馬	Allegro marziale	♩ = 152	♩ = 152

以上のことから、『シャーマー版』は『ドイツ版』のプレート番号 11509 と同じではあるが、『ドイツ版』の楽譜表記と異なる箇所があることから、再版ではなく解釈版と捉えるべきだと筆者は考える。

3　まとめと今後の課題

『シャーマー版』は、『ドイツ版』の出版社であるショット社名の表記と同じプレート番号 11509 を使用しているにも関わらず、解釈版と捉えることができる楽譜表記へと変更されている箇所が確認できた。『シャーマー版』が出版された経緯や出版年は不明ではあるが、ブルクミュラーが生存中の 1861 年にシャーマー社が創設されていることから、ブルクミュラーからの指示があった可能性がある。また、ショット社と G. シャーマー社の間でも再版にあたっての編集のやりとりがあったことも考えられる。

いずれにせよ、ブルクミュラーが生存中に出版した『フランス版』『ドイツ版』、そしてその初版に関わる『シャーマー版』は、その後の『練習曲』の楽譜校訂・解釈版の底本として用いられることから、比較を行なって各楽譜表記の違いを示してきた。

筆者のこれまでの研究から、『フランス版』は主として少し長めのアクセント記号の表記となっており、それと同じサイズのデクレシェンド記号も散見される。1 つの音価に表記されている場合はアクセント、符頭 2~3 音にかけて表記がある場合は曲想や前後関係からアクセントないしデクレシェンドにするかを考える必要がある。『ドイツ版』は主として今日使用されている一般的なアクセント記号（符頭と同サイズ）の表記となっており、所々に少し長めの記号（デクレシェンドとも解釈できる）の 2 種の表記がある。『ドイツ版』が 2 種類の表記を用いていることから、ブルクミュラーの意図した音楽を『フランス版』よりも反映しているように考えられる。これは、ブルクミュラーと同時代を生きたフレデリック・フランチシュク , ショパン Frederic Franciszek, Chopin（1810-1849）も、短い・長いアクセントを区別して表記をしていたことに関連する。しかし、『練習曲』の自筆譜がみつかっていないことから、ブルクミュラーは『フランス版』のように長いアクセント記号を多用していたとも考えられる。『シャーマー版』は『ドイツ版』を踏まえているため、アクセント記号の表記は同様ではあるが、『フランス版』と同じ表記を取り入れたり、ミスプリントを修正し補填の記号を追加したと考えられる箇所が

あったりすることがわかった。また、解釈版の『ルートハルト版』[3]は、『フランス版』『ドイツ版』とは違う表記に大幅に変更されており、ブルクミュラーの意図した音楽とは掛け離れたものになっている。

本稿では詳細を示さなかったが、G.シャーマー社からは『シャーマー版』の他に、解釈版にあたる『オーステール版』が1903年に出版されている。底本にしているのは『シャーマー版』ではあるが、非常に多くの違いが確認できる。①スラーの長さ（『シャーマー版』通りのアーティキュレーションスラーの他、フレージングスラーへと変更している箇所がある）の変更、アウフタクトのフレーズへの変更、クレシェンド・デクレシェンドの削除と追加、あるいは『シャーマー版』とは逆の強弱記号に変更、運指の追加等が挙げられる。これらの変更点は『ルートハルト版』にも共通する箇所がある。『ルートハルト版（ドイツ）』と『オーステール版（アメリカ）』はともに1903年頃に出版されており、出版国は違うが、当時の習慣に倣って表記を変更したと考えられる。

「ブルクミュラー『25の練習曲 作品100』の楽譜表記の研究」（1）と本稿では、『フランス版』『ドイツ版』『シャーマー版』の初版に関連する楽譜を主として示してきた。これら初版楽譜を土台とした日本国内の『練習曲』研究と国内版『練習曲』の楽譜は少ないため、今後さらなる見直しが必要ではないだろうか。その一方で、これまでの研究で明らかにされてきた事柄や豊富な国内版『練習曲』の楽譜表記から多様な解釈を学ぶことができ、音楽の豊かさを感じることができるだろう。また、今後も日本国内において『練習曲』の人気が続くと思われる。それぞれの楽譜の価値を否定せず、『フランス版』『ドイツ版』『シャーマー版』『オーステール版』『ルートハルト版』等の古い時代の楽譜と、現代の楽譜からさまざまな音楽的解釈を学ぶことがピアノ指導者に必要なことと筆者は考えている。

今後の課題として、本稿では紙面の関係で『シャーマー版』と『オーステール版』、それから日本国内版『練習曲』の楽譜表記の比較と考察ができていない。具体的にどのような楽譜表記の変更（解釈）を行い、どのような特徴があるかについては、今後の研究で譜例を用いて示していく予定である。そして、2004年にG.シャーマー社から出版された『練習曲』、2006年にショット社から出版された『練習曲』、その他の海外出版社の『練習曲』の楽譜表記を調査し、初版楽譜からどのような変更が行われたのか、音楽的な解釈と関わらせて明らかにしていきたい。

注

1　飯田有抄；前島美保（2014：131-132）によると、昭和15年版はブノワ・エネ社の初版やパットン旧蔵のショット社版に近い系統のものと考えられる、「私たち昭和世代が慣れ親しんだ全音楽譜出版社や音楽之友社などの楽譜は、すべてこの昭和17年版『MOHAN』、つまりペータース版の系統だ」と指摘している。また、種田直之（1990：5）が校訂したウィーン原典版楽譜の学習者のための助言「初版出版後の楽譜，特にスラーの変更」において、「この練習曲の多くの版では楽譜が非常に大きく変更されている。特にスラーは原曲から掛け離れたものとなっている」と指摘している。筆者（牛頭真也 2022：69-82）が昨年、日本国内版『練習曲』37冊の楽譜（抜粋せずに楽譜を掲載している指導書は含むが、アレンジ、2台ピアノ、連弾等の楽譜は除く）を調査した結果、『フランス版』『ドイツ版』を底本にしている楽譜は6冊のみであることがわかった。種田直之（1990：音楽之友社）、春畑セロリ（2006：音楽之友社）、手塚真人（2020：ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス）、今井顕（2019：東音企画「原典スラー付き」）、今井顕（2019：東音企画「指導マニュアル」）、渡部由記子らの校訂・編集（2019：東音企画）である。

2　筆者が所持しているシャーマー社のマーガレット・オトウェル校訂楽譜は、2004 年版のものである。この楽譜にはコードナンバーが記載しており、Halleonard 社のホームページにアクセスし入力すると各曲の演奏を聴くことができる。2015 年版は楽譜のみの出版となっている。また、同一の出版社（G. シャーマー社）から出版された 1903 年のルイ・オーステール校訂版とオトウェル校訂版の違いは根本的なものではないと記事に示されている。

3　今井顕（2019：5「指導マニュアル」）によると「従来の楽譜にもフレージングスラーや補填の記号などが表示されていますが、これらは後の編集者・校訂者の手によるもので、ブルグミュラー自身が作品に託した抑揚からは大きくかけ離れたものとなってしまいました。これらは 19 世紀末にドイツの音楽学者フーゴー・リーマンが提唱した『音楽の基本はアウフタクト形式にある』という考えに沿ったもので、当時はともかく、今では時代遅れとなってしまった理論です」とブルクミュラーの従来の楽譜の問題点の頁で指摘している。

引用・参考文献（楽譜）一覧

飯田有抄；前島美保 2014『ブルクミュラー25 の不思議 なぜこんなにも愛されるのか』東京：音楽之友社

牛頭真也 2022「ブルクミュラー『25 の練習曲 作品 100』の楽譜表記の研究（1）」『洗足論叢』第 50 号 69-82

高橋淳 1989『楽譜の正しい選び方』東京：春秋社

吉成順 2012『知って得するエディション講座』東京：音楽之友社

ブルクミュラー 1990『ブルクミュラー25 の練習曲』ウィーン原典版 種田直之 初版にもとづく校訂 東京：音楽之友社

ブルクミュラー 2006『ブルクミュラー25 の練習曲 New Edition』春畑セロリ解説 東京：音楽之友社

ブルグミュラー 2015『ブルグミュラー25 の練習曲（和音記号・コードネーム付き）』渡部由記子；石黒加須美他協力 東京：東音企画

ブルグミュラー 2019『ブルグミュラー25 の練習曲 指導マニュアル ～素敵に演奏するために～』今井顕 校訂・解説 東京：東音企画

ブルグミュラー 2019『ブルグミュラー25 の練習曲（原典版スラー付き』今井顕校訂 佐藤卓史解説 東京：東音企画

ブルグミュラー 2020『ブルグミュラー25 の練習曲』楽譜校訂・「演奏のために」手塚真人 東京：ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス

F.Burgmüller. 1903 *25 ÉTUDES FACILES ET PROGRESSIVE Opus 100*. Herausgegeben Adolf Ruthardt. C.F.Peters. Leipzig.

F.Burgmüller. 1974 *25 ÉTUDES FACILES ET PROGRESSIVE Opus 100*. Herausgegeben von Adolf Ruthardt. Hinrichsen Edition, C.F.Peters. Ltd.London.

F.Burgmüller. 1903 *Twenty-Five Easy and Progressive Studies For the Piano Expressly Composed for Small Hands Op. 100*. Edited and Fingered by LOUIS OESTERLE. G.Schirmer. U.S.A.

F.Burgmüller. 2004 *25 Progressive Studies Opus 100*. Edited and Recorded by Margaret Otwell. G.Schirmer, Inc. Distributed by HAL・LEONARD CORPORATION. New York, NY.

F.Burgmüller. 2006 *25 Leichte Etüden Opus 100*. Herausgegeben von Monika Twelsiek. Schoot Music GmbH & Co. Mainz. Germany.

『フランス版』（フランス国立図書館ウェブサイト：Gallica）インターネット，
https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b52502531m.r=Burgmuller%20100?rk=21459;2（2021/4/18 にアクセス）

『ドイツ版』（スペイン電子図書館：BIBLIOTECA DIGITAL HISPÁNICA）インターネット，
http://bdh-rd.bne.es/viewer.vm?id=0000093916&page=1（2021/4/18 にアクセス）

『再版：G. シャーマー社版』（ペトルッチ楽譜ライブラリー出版情報：IMSLP）インターネット，

https://imslp.org/wiki/25_Études_faciles_et_progressives%2C_Op.100_（Burgmüller%2C_Friedrich）（2021/8/16 にアクセス）

RILM「25 progressive studies, opus 100」インターネット，
https://content.ebscohost.com/ContentServer.asp?T=P&P=AN&K=R133915&S=R&D=rft&EbscoContent=dGJyMNHX8kSeqLc4zdnyOLCmsEqeprRSs624SLSWxWXS&ContentCustomer=dGJyMOzpr1C3prVRuePfgeyx44Dt6fIA（2022/11/2 にアクセス）